

全日遊連がRSNの費用負担を要請

全日遊連、日遊協、日工組、日電協の4団体代表者懇談会

11月15日に開催された4団体代表者懇談会(全日遊連、日遊協、日工組、日電協)の内容が、全日遊連理事会で報告された。

全日遊連が設立し年間経費を全面的に支援している依存問題相談機関リカバリーサポートネットワーク(RSN)については、依存問題はホール団体だけでなく業界全体で取り組むべき問題として、全日遊連から他の3団体に費用の負担等を要請。RSNの西村直之代表理事が活動内容、問題点、財政状況、今後

の取り組み方を具体的に説明した。3団体は持ち帰って検討する。

RSNは10月21日にこれまでの任意団体からNPO法人になったので他団体も支援しやすい状況が整った。

さらに、平成19年11月以降中断されていた「21世紀会(14団体)については、他団体から半年に1回ぐらいは開催するべきじゃないか」という要請を受け、12月14日に「遊技会館」で開催されることが決定。

この中でも全日遊連は他の13団体にRSNへの費用負担等の支援を

要請する。21世紀会の議題はこのほかに固まっているテーマはまだまだなく、

原田理事長(21世紀会新座長候補)の顔見せの色合いが濃いようだ。

なお、廣田耕一警察庁保安課長が初めて出席して挨拶する。

4団体合意の内容の具体化で弁護士含む小委設置

「4団体合意」に基づく合意内容を具体化する問題では、4団体の「情報共有化」について全日遊連案、

日遊協案、日工組・日電協案の3案が出され、各団体からの委員に弁護士を加えた小委員会を設置してさらに具体的に検討していくことが決まり、年内に1回目の会合が開かれる。

さらに「遊パチ」の定義の見直しについて協議されたが、1円パチンコの登場で「遊パチ」を打ち出した3年前とは状況が変わり、ホールにも客にも「手軽に安く遊べる遊技機」の「遊べる」の嗜好の方向性が見えずらく、6個戻しのパチンコ機を製造してもコストが高くなって売れないなどの意見が出されたことから、引き続き時間をかけて協議していくことになった。